

令和元年6月7日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K02693

研究課題名(和文) 日本語話者用の「中国語語彙学習辞典」作成に向けての研究

研究課題名(英文) Research to aid in the creation of a "Chinese Learning Dictionary" for Japanese speakers

研究代表者

浅野 雅樹 (ASANO, Masaki)

慶應義塾大学・文学部(日吉)・教授

研究者番号：70514131

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：日本語話者を対象とした中国語の学習辞書を作成する目的で研究を行なった。一般辞書と異なり、学習辞書は収録語を限定し、学習者にとって特に理解や習得が困難な語彙を取り上げ、意味記述や用例において、学習者の視点に立った明示が必要となる。本研究は主に、中級レベルの学習者を対象とし、名詞、動詞、形容詞等の二音節の内容語の中で、どのようなタイプの語の難易度が高いのかという点を明らかにした。その上で、それらの語彙が学習辞書の中でどのように扱われるべきなのかという問題について、一つ一つの語に対し詳細な解析を行ない、また理想的な学習辞書の全体像を模索した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究で作成を目指したような日本語話者向けの中国語の学習辞書が完成に至れば、大学の授業など、あらゆる教育や学習の実践の場で直接活用できると言える。日本語話者の中国語学習における語彙学習の面では、実詞と呼ばれる動詞、名詞、形容詞などの内容語について、語義や用法を含め、詳細な解説や記述が付している辞書や学習書、参考書が少ない状況において、本研究の成果を還元できると認識している。

研究成果の概要(英文)：We conducted research with the purpose of creating a learning dictionary targeted at Japanese speakers. Unlike a general dictionary, a learning dictionary has fewer entries, includes vocabulary words that have high levels of difficulty particularly for comprehension and acquisition from the viewpoint of the learner. This study clarified the point of what kind of words have high difficulty levels, mainly among two syllable content words including nouns, verbs, adverbs, etc. targeted at intermediate level learners. Additionally, regarding the problem of how to handle those vocabulary words in a learning dictionary, we conducted a detailed analysis for each word and attempted to unveil the general, overall ideals for learning dictionaries.

研究分野：中国語教育

キーワード：中国語学 中国語教育 中国語学習辞書 中国語語彙

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

日本の主に大学における中国語教育の課題の一つとして、教師側の立場から見た語彙指導と学習者側から見た語彙学習が挙げられる。言語の三大要素である「文法」、「音声」、「語彙」を比較すると、語彙教育に関する課題が未解決な部分がより多いことは明らかである。コミュニケーション能力の育成を目的とした語学教育では、学習者の語彙力の強化が求められる。ただ学習者の語彙学習を観察すると、本来多くの語彙学習に関するストラテジーがあるにもかかわらず、「ただ単語を繰り返し音読したり、書いたりして暗記する」「辞書で訳(日本語の訳語)を調べる」といった方法しか用いられていない状況が見受けられる。また指導する側も、「とにかく覚えて」、「辞書を調べて」といった指導が主流であり、また授業で使用されるテキストは、語彙は課文(テキスト本文)の語注の役割で付される「提示語 - ピンイン - 訳語(品詞)」の枠組みだけを示すものが圧倒的に多い。したがって、中国語の語彙学習とはピンインを覚え、訳語(日本語)を知ることであるという誤った認識が多くの学習者にされている。

本研究を進めるにあたり、語彙学習中心のテキストに加え、さらに中国の国際漢語教学界ではよく用いられる「語彙学習辞典」の日本語話者学習者専用版が不可欠であるという認識に至った。とりわけ、動詞、名詞、形容詞など実詞と言われる内容語については、学習者の語彙学習に関する意識を変える必要性が指摘できる。テキストに新出語句の訳語だけではなく様々な語彙情報を示したり、語彙論の体系的知識を明示したりすることにより、「語彙の深さ」の面での理解を深めることが重要であると考えられる。現状においては、学習者がこのような語彙能力を高めようとした場合は、授業で使用するテキスト以外に、単語帳や資格試験の必須単語のリスト、もしくは一般辞書しかない。中国で出版されている「語彙学習辞典」はすべて中国語による表記で、また日本語話者の学習者だけを対象として作成・編纂されたものではないことから、日本語話者の日本における学習の場では、レベル的或いは内容的に適さないことが多い。

### 2. 研究の目的

本研究は日本語話者の中国語学習者が使用する単語帳と一般辞書の間位置づけられる「語彙学習辞典」の作成を最終的な目的とするものである。辞書の作成に向けて、日本語話者の中国語学習者の語彙学習や、中国語語彙論、辞書学など様々な角度から、理論または実践の面で指摘される問題点を明らかにするとともに、その解決を試みる。

中国の国際漢語教学界では、これまで様々な「語彙学習辞典」が出版され教育現場で使用されている。しかし、これらは日本語話者の学習者だけを対象に編纂されたものではない。現在日本の中国語教育界では様々な中国語の学習書や参考書、一般辞書が作成され出版に至っているが、「語彙学習辞典」の存在は空白になっている。学習者にとって動詞、名詞、形容詞など二音節の実詞の中で、特に難解である語彙をピックアップし、また「ピンイン」や「訳語」、「語義記述」、「用例」にとどまらず、学習者にとって必要であり、また語彙能力の定着・発展という側面から見て有益な語彙情報を示す「語彙学習辞典」は、特に初級から中級レベルへの向上に対しては必須の工具書であると言える。

### 3. 研究の方法

おおよそ初級から中級レベルの学習者が使用する「中国語語彙学習辞典」の作成に向けて、教育現場での実用性を見据えた研究を進める。まず、既存の中国語語彙に関するガイドラインを参照し、日本人学習者にとって難解で必要度が高い語彙(二音節の実詞を中心に)を選出する。その際には、ある場面における使用頻度、語彙論における体系性といった指導の立場から、及び第二言語習得論や語彙テストやアンケートの方式で学習者の語彙能力を測るといった学習者の立場という二つの方面から考察を行う。さらに、特に日本語話者の学習者の中国語語彙習得という面に注意を払い、一つの語に対して、具体的にどのような情報や語彙論における事項を明記した上で辞典を作成すればよいのか、という問題を明確にするのが本研究の本題である。また、一部の成果は教育現場において試用し、その効果と問題を見極める。

### 4. 研究成果

(1)主に『漢語国際教育用音節漢字詞彙等級大綱(2010年)』、『新HSK詞表5000』(2008年)、『中国語初級段階学習指導ガイドライン(2007年)』などのガイドラインや国際漢語教育用の中国語教材を参照して、日本人学習者(第一言語を日本語とする学習者)にとって語彙学習及び習得が困難である語の選定作業を進めた。二音節の実詞(動詞、名詞、形容詞等の内容語)を中心に、様々な観点から約200の語を選定した。選定作業に際しては、語の語彙的性質、特徴、具体的に述べれば

語形、語義、語用面（位相）で、どの要素が学習者の語彙学習や習得に関する難易度を高める要因となっているのかという点を注視した。日本語話者の学習者にとって、難易度が高く、学習・習得が困難な語を収録する学習辞書の作成が本研究の目的であるが、研究期間中に、中級レベルの学習者に対して、語彙の学習度と理解度を測定するアンケート調査を行った。その後、アンケート結果の解析と統計処理を行ない、この調査の結果と語の語彙的な性質や特徴を照合し、個別の語の難易度を測定することを目的とした考察を進めた。その結果、学習者にとっての学習語彙の難易度には、「形態素の性質や語義の透明性」、「日本語の漢語語彙との関係性」、「語や形態素の多義性」などが作用している点を立証することができた。中国語の学習辞書の作成において、学習者の側面から、習得や理解が難しい語を認定し、それらを優先的に辞書の見出し語とすることが求められる。したがって、本調査によって得た結論は、以後の辞書の作成という目的に対し、根幹となるデータを獲得できたと言える。

また学習辞書にはどのような語彙論的な情報を明示するのが適当なのかという観点から、数多く存在する語彙論の体系的知識に関する項目に対して、学習者の理解度を測定するための学習者に対するアンケート調査を行った。その結果、「語形」に関する「形態素」、「語構成」、「合成語や接辞」についての知識は中級レベルの学習者でも持ち合わせていない場合が多いという点などが明らかになった。本調査の結果に依拠し、学習辞書や教材で、個別の語が有するどのような語彙情報を取り入れるのが適切であるのかという点を総括し、国際会議において学術報告を行うことができた。

本研究では、これらの研究者自身の語彙論的考察や学習者に対するアンケート調査の結果に基づき、学習辞書の作成に向けて、執筆作業を行った。現在も進行中であるが、現時点において選定した約 200 語の中から、さらに約 50 の語については、「語義記述」、「用例」、「注釈（補足）」といった辞書のミクロ構造を成す要素を確定することができた。本作業は、理論的な考察とともに、継続的に今後も行う予定であり、将来的に日本語話者の学習者を対象とした約 500 の実詞を見出し語とする学習辞書の完成を目指している。

（2）既存の辞書で採用される「語義記述の方法（中国語では“釈義法”）」について、数多くある方法の中で、日本語話者の中国語学習にとって、どの方法に有用性があるのかという点や、また、辞書の見出し語の語彙的性質と語義記述の方法の関係性などの面から考察を行った。約 10 冊の中国語学習辞書に対して、調査を行ない、主に辞書の中で用いられている「語義記述の方法」について、まずどのような方法が採用されているのかを明確にした上で、それぞれの方法の適用性を考察した。とりわけ初級から中級の学習者に対しては、訳語による方法が中心である一方で、「形態素による方法」や「定義法」も有用性が高いことがわかった。また、主に語の語彙的性質（形態素の意義、日本語の漢語語彙との関係性、語義の抽象性など）によって、採用する方法を選定することが、語彙教育全体における一つの課題であることを指摘した。具体的に七つの方法について、既存の辞書の例を参考としながら、本題に対して考察、分析した研究論文を作成した。本研究で作成を目指している学習辞書においても、「訳語による方法」のみならず、その他の「語義記述の方法」を使用することができた。また研究者本人は研究期間中に、初級中国語のテキスト（共著）を執筆し、出版することができたが、その中の語彙表に本研究の成果を部分的にはあるが、取り入れることができた。

（3）学習辞書のミクロ構造として、重要な役割を果たす要素として、「用例」がある。学習辞書の性質を考慮した場合、「用例」は単に見出し語を含んだ文を提示すればよいというものではなく、学習者の語彙に対する理解や習得に対して有用性が高い文を選択した上で、提示する必要性が高まる。本研究では、既存の学習辞書において提示される「用例文」の特徴や性格を調査し、さらに先行研究の文献や資料を収集した。中国の国際漢語教育の場で使用されている約 10 冊の学習辞書を対象にその「用例」の形式と内容、機能等について調査をした。各語の語彙的な特徴や性質に応じた用例の提示、「語義記述の方法」に対応した「用例」の提示について、考察を進めた。とりわけ、日本語と同形の二音節の実詞の中で、わずかな差異を有する「日中同形近義語」と言われるタイプの語について、その用例提示に対して、新たな方法を見出すことができた。また、実際に（1）で述べた作成を試みている学習辞書の見出し語として選定した約 200 語の中の 50 語については、学習者にとって適当な「用例」を収集或いは考案することができた。さらに「用例」を学習者のレベルによって分けて付す方法についても探求し、一部作成することができた。

（4）辞書に示される語義の面での語彙情報として主なものに「類義語」と「反義

語」がある。以前、研究者本人により実施した。「類義語」の研究成果を参考にして、「反義語」に関する調査と研究を進めた。「反義語」について、既存の辞書に対する用例を調査し、その問題点を指摘し、語彙教育に効果的に該当事項を取り入れる方策をテーマとした論考を公表することができた。さらに、日本で使用されている中国語のテキストを調査対象とし、新出語句等の部分において、どの程度の反義語が明示されているのかといった点について明らかにした。ある語の反義語はどの語なのかといった選定に関する課題も含めて、本研究では主に日本語話者の中国語学習者を対象に、中国語の語彙指導において「反義語」を取り入れることの意義と有用性についての考察を行なった。その上で、実際、教育や学習の現場で使用されるテキストや辞書に、具体的にどのような「反義語」を導入し、提示すべきなのかといった課題についても言及をした。その他、語の多義性や類義関係を利用した反義語の指導、反義語に関わる「付属義」の問題、反義語辞典で示される語感義、日本語の漢語語彙における反義語との関係性、反義語とされる語が持つ「文化義」との関係性といった面からの考察も試みた。

また本論文による成果については、研究者本人が研究期間中に執筆し、出版された授業用の初級中国語のテキスト(共著)に部分的にはあるが、取り入れることができた。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計4件)

①浅野雅樹、中級中国語学習者の語彙学習と語の「難易度」について：語彙論における事項からの調査と考察、慶應義塾大学日吉紀要。言語・文化・コミュニケーション、査読無、50号、2018、pp.1-18

浅野雅樹、中国語教育における「語義記述の方法」に関する考察 - 「訳語」以外の方法の適用性を中心に -、藝文研究、査読無、111号、2016、pp.184-203

浅野雅樹、日本国内學生的華語詞彙論知識調査與考察、『第5屆教師、第8屆研究生、全球華語文教師與研究生論壇論文集』世界華語文教育學會、査読有、2016、pp.1075-1084.

浅野雅樹、中国語教育における「反義語」を用いた語彙指導について、『慶應義塾外国語教育』慶應義塾大学外国語教育センター、査読有、第12号、pp.1-26

〔学会発表〕(計3件)

浅野雅樹、中国語学習辞書の用例について - 語彙論的考察を中心として -、中国語教育学会第16回全国大会、2018年6月

浅野雅樹、对于日本国内中級以上汉语学习者的词汇习得和难度调查与分析、第九届亚太地区国际汉语教学协会年会、2017年10月

浅野雅樹、日本国内學生的華語詞彙論知識調査與考察、第5回全球華語文教師與研究生論壇論、2016年1月

〔図書〕(計1件)

浅野雅樹、李晶(共著)朝日出版社、『単語力を高めるいきいき中国語』、2018

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年：

国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等